

時間	講義項目
13:00 ~ 14:00	<p>・教育理念・ミッションを実現する学長・学部長の役割と責務</p> <p>1. ミッションの草案づくりは学長の役割</p> <p>(1) 企業マネジメントと大学マネジメントの共通性と相違性</p> <p>(2) 大学の理念とミッションの確定は学長の責務</p> <p>(3) ミッションに基づく戦略の確立 (4) 大学の一義的なミッションは「教育」</p> <p>(5) 大学の置かれている環境認識とリエンジニアリング</p> <p>2. トップダウンでなければマネジメントはできない</p> <p>(1) 学長の経営戦略と運営組織 (2) 学長方針を受けて学部長・教職員方針を具体化</p> <p>(3) 学部長のリーダーシップと教授会との関係 (4) 教授会と委員会の関係</p> <p>(5) 学長・学部長のリーダーシップとマネジメント能力</p> <p style="text-align: right;">質疑応答</p>
14:10 ~ 15:10	<p>・大学の経営戦略としての独創的な教育コンテンツとメソッド</p> <p>1. 学生と地域社会のための大学</p> <p>(1) 大学は一義的には学生のものである</p> <p>(2) 地元企業・自治体との連携と冠講座の意義と効果</p> <p>(3) エクステンションセンターの役割 (4) 市民ギャラリーと経済フォーラム</p> <p>(5) 大学の社会的位置付けと学長の役割</p> <p>2. 大学の独自性としてのコンテンツとメソッド</p> <p>(1) 大学の「売り」としてのカリキュラム</p> <p>(2) ティーチングメソッドの開発とSSUメソッドの可能性</p> <p>(3) トップダウンによる組織的メソッド開発 (4) 開発したメソッドは3年で世に問う</p> <p>(5) 学生のニーズ把握と教育コンテンツの構築(科目には寿命がある)</p> <p style="text-align: right;">質疑応答</p>
15:20 ~ 16:20	<p>・情報分析と評価を活かした教育の再構築とマネジメントの刷新</p> <p>1. 事務部門の強化なくして教学の強化なし</p> <p>(1) 大学教員が本来やるべき仕事は何か (2) 教員人事制度の再設計と組織のスリム化</p> <p>(3) 企業に学ぶ大学の品質管理</p> <p>(4) 優秀な教職員を育てるための学長・学部長がすべきこと</p> <p>(5) 教職員の職務分担の見直しと学部長のリーダーシップ</p> <p>2. 情報分析と評価による教育理念とコンテンツの再構築</p> <p>(1) 情報分析のできる人材の確保 (2) 評価をマネジメントに役立てる仕組みづくり</p> <p>(3) 学生の参加を活かす大学運営「学生満足度調査」</p> <p>(4) 情報と評価に基づく教育理念とコンテンツの再構築</p> <p>(5) 教育の再構築と学長・学部長の責務</p> <p style="text-align: right;">質疑応答</p>

大坪 檀(おおつぼ まゆみ) 氏

東京大学経済学部商業学科卒業、カリフォルニア大学経営学大学院修士課程修了。

(株)ブリヂストン経営情報部長、米国ブリヂストンの経営責任者、宣伝部長を歴任。その間、上智大学講師を勤める。ペンネーム「千尾将」で50冊以上の出版物を執筆。1987年より静岡県立大学経営情報学部教授、学部長、学長補佐を歴任、同大学名誉教授。1998年より静岡産業大学国際情報学部教授、2000年に同大学学長に就任、2005年より学校法人第二静岡学園副理事長、現在に至る。専門分野はマーケティング、経営戦略、企業家論、行政改革。

主な著書『情報社会と経営』(文眞堂)、『日本の戦後企業家史』(有斐閣)など。2001年11月より(株)リクルート『カレッジマネジメント』誌に『実践的学長マネジメント論』を連載。『大学のマネジメント・その実践』(学法新書)は、同誌連載の集大成である。「最終学歴なし」が氏のモットー。